

平成28年度

# 大山崎町教育委員会事業報告書

(平成27年度対象)



平成28年8月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 27 年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものであります。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

大山崎町教育委員会

#### 教育委員会名簿

職 名	氏 名
教 育 長	清 水 清
教育長職務代理	南 顕 融
委 員	並 川 康 子
委 員	藤 井 恵 美 子
委 員	榎 本 和 彦

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 1 教育委員会の活動状況

1. 会議の開催状況

No.	会議名	開催日	議事(審議) 案件
1	4月定例会	平成27年 4月27日	諸報告について (第30号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第31号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について
2	4月臨時会	平成27年 4月27日	(第32号議案)大山崎町教育委員会委員の辞職について
3	5月定例会	平成27年 5月27日	諸報告について (第33号議案)大山崎町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
4	6月定例会	平成27年 6月26日	諸報告について (第34号議案)大山崎町教育委員会公印規定の一部を改正する規則について
5	7月定例会	平成27年 7月23日	諸報告について
6	8月定例会	平成27年 8月21日	諸報告について (第35号議案)平成28年度中学校使用教科用図書の採択について
7	9月定例会	平成27年 9月24日	諸報告について
8	10月定例会	平成27年10月27日	諸報告について
9	11月定例会	平成27年11月30日	諸報告について
10	12月臨時会	平成27年12月 4日	大山崎小学校不審電話事象について
11	12月定例会	平成27年12月22日	諸報告について
12	1月定例会	平成28年 1月22日	諸報告について (第1号議案)大山崎町就学指導委員会規則の一部を改正する規則の制定について (第2号議案)大山崎町歴史資料館の管理及び運営に関する規則の一部改正について
13	2月定例会	平成28年 2月23日	諸報告について (第3号議案)就学援助規則の一部改正について (第4号議案)第2期大山崎町教育振興基本計画(大山崎町教育大綱)の策定について (第5号議案)平成28年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について (第6号議案)平成28年度中学校使用教科用

			図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について
14	2月臨時会	平成28年 2月26日	(第7号議案)教職員管理職の人事異動について
15	3月臨時会	平成28年 3月15日	(第8号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について
16	3月定例会	平成28年 3月24日	<p>諸報告について</p> <p>(第9号議案)大山崎町立小中学校管理運営に関する規則の一部改正について</p> <p>(第10号議案)大山崎町社会教育委員会議運営規則の一部改正について</p> <p>(第11号議案)大山崎町社会教育委員会傍聴規則の制定について</p> <p>(第12号議案)平成28年度学校教育・社会教育の指導の重点を定めることについて</p> <p>(第13号議案)平成28年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について</p> <p>(第14号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について</p> <p>(第15号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第16号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第17号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第18号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第19号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第20号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第21号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について</p> <p>(第22号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第23号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第24号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第25号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p> <p>(第26号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の選任について</p>

			<p>(第27号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第28号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第29号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第30号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第31号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第32号議案)第二大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第33号議案)第二大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第34号議案)第二大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第35号議案)第二大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について</p> <p>(第36号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第37号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p> <p>(第38号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について</p>
--	--	--	---

## 2. その他の会議や活動など

### (1) 総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

	会議名	開催日	協議・調整事項
1	第1回	平成27年 8月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町総合教育会議及び運営要項について</li> <li>・教育に関する大綱の策定について</li> <li>・大山崎町の教育について</li> <li>・その他</li> </ul>
2	第2回	11月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町教育振興基本計画（教育大綱）の基本理念について</li> <li>・教育に関する重要施策の方向性の検討について</li> <li>・その他</li> </ul>
3	第3回	平成28年 2月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町「教育大綱・教育振興基本計画」の策定について</li> <li>・教育を行うための諸条件の整備、重点的に講ずべき施策について</li> <li>・その他</li> </ul>

## (2) 教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・大山崎町立小中学校入学式・卒業証書授与式
- ・大山崎町立小中学校運動会・体育大会
- ・大山崎町立小中学校授業参観（研究発表会等）
- ・学校計画訪問（授業参観、懇談等）
- ・乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会
- ・大山崎町民体育祭
- ・大山崎町自治記念式
- ・大山崎町文化のつどい
- ・乙訓地方小学生駅伝大会
- ・大山崎町成人式
- ・大山崎中学校吹奏楽部定期演奏会 ほか

## (3) 委員研修

- |                                      |                |
|--------------------------------------|----------------|
| ① 乙訓教育委員会連合会研修会                      | 平成27年 5月12日（火） |
| ② 京都府市町村教育委員会連合会委員研修会                | 平成27年 5月25日（月） |
| ③ 近畿市町村教育委員研修大会（京都市）<br>（府の研修会と合同開催） | 平成27年10月13日（火） |
| ④ 市町村教育委員会研究協議会（第27回ワカ奈良会場）          | 平成27年11月12日（木） |
| ⑤ 乙訓教育委員会連合会研修会（兵庫県西宮市）              | 平成28年 1月28日（木） |

## 2 教育行政事務に係る点検・評価



(1) 点検・評価の対象及び方法

平成27年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

(2) 評価委員

氏 名	役 職 等
浅野 輝男	人権擁護委員
田中 久美子	京都府教育委員会教師力向上アドバイザー - 元校長

### 3 事業評価シート

事務事業名	学力向上推進事業Ⅰ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>学習意欲の喚起と基礎的・基本的な学力の定着及び向上に向け、児童生徒の実情に合わせた事業として、次のような取組を各校で行った。</p> <p>① 子どものための京都式少人数教育の実施</p> <p>＜大山崎小学校＞ 第4・5・6学年で少人数学級を実施</p> <p>＜第二大山崎小学校＞ 第5学年の算数科で少人数授業を実施</p> <p>＜大山崎中学校＞ 第1学年の数学科・英語科、第2学年の英語科でチームティーチングを実施</p> <p>英語科において小中連携加配を配置し、小学校第6学年、中学校第2学年の授業をチームティーチングで実施</p> <p>② 学力向上に向けた学校独自の取組</p> <p>＜大山崎小学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山っ子検定の実施：国語(漢字)・算数(計算)における学年での達成目標を定め、学期毎に相当の検定試験問題に挑戦させた。(各学期初めに実施)</li> <li>・クリアできない児童には補習を行い、全員合格を目標に取り組んだ。</li> <li>・補習がんばり日：全学年、週1日を設定した。</li> <li>・マスターウィークチェック：早寝・早起き・朝ごはんなどの生活項目についてのチェック週間を設けて実施した。</li> </ul> <p>＜第二大山崎小学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習では、漢字や計算の繰り返し反復学習により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。</li> <li>・学期毎のまとめテスト：指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。</li> <li>・府の事業(小学生個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」)を受け、第5学年10～15名の児童を対象に1名の学習支援員が、6月10日から11月11日の間で20時間、算数科の補習に取り組んだ。</li> </ul> <p>＜大山崎中学校＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26・27年度「学力向上システム開発校」の研究指定を京都府教育委員会、大山崎町教育委員会から受けて、研究主題は、「学習意欲と確かな学力の定着・向上を目指した指導の在り方～小中連携の視点を基盤として～」と設定し、中学校を核として2小学校と連携して、公開授業や研修会の実施から、教師の授業改善に取り組み、児童生徒の学力の向上を図った。</li> <li>・英語検定の実施と取組：校内を準会場として英語検定を実施するとともに、合格に向けての学習会を、英語担当教師が昼休み、放課後を使い3回行った。検定費用として一人1回1,000円の町からの補助があり、その補助を147人が利用し、受験生徒は223人だった。</li> <li>・英語検定を土曜活用の一環として1回実施した。</li> <li>・中2学力アップ事業として、夏季休業期間を中心に計7日間、数学、英語</li> </ul>		

	<p>の学力アップを目指した補習学習を実施した。数学18名、英語18名が補習を受ける。補習日 7月27日(月)、28日(火)、29日(水)、8月18日(火)、19日(水)、11月21日(土) 数学 計21時間、英語 計18時間</p> <p>③ 中1振り返り集中講座</p> <p>大山崎中学校第1学年において、小学校で習得できなかった基礎基本の学習内容の定着を図り、中学校でのスムーズな学習活動に取り組めるよう、夏季休業中を中心に実施した。</p> <p>教科名及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学 分数計算、正負の四則計算、かっこのある式の計算、文字式と関係を表す式</li> <li>・英語 アルファベット、英単語学習</li> <li>・実施日(数英とも) 7月27日(月)、28日(火)、29日(水)、8月18日(火)、19日(水)、21日(金) 計36時間</li> <li>・対象生徒 数学 15人、英語15人</li> </ul>
<p style="text-align: center;">成 果</p>	<p>① 少人数学級及び少人数授業により、多くの児童生徒に学習内容の定着と学習意欲の向上が図れた。これは、学習集団の少人数化やチームティーチングを含む複数指導により、個に応じた適切な学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いて学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心が高まったことによるものである。</p> <p>英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語活動の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続となっている。</p> <p>② 学校独自の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき指導に役立つとともに、児童の学習へのチャレンジ意欲の向上につながった。</li> <li>・中学校での英語検定の実施は、多くの生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英語の検定費補助は、受験人数の増加の効果が大きかった。</li> </ul> <p>③ 中2学力アップ講座は、数学、英語の補充学習を実施し、個々の生徒の学力アップにつながった。そして、中1振り返り集中講座は、小学校での基礎的・基本的な内容を中心に学習内容を厳選し、徹底した個別指導を行っており、その学習内容の定着と学習に対する意欲や興味・関心を高めることができたのではないかと考えられる。</p>
<p style="text-align: center;">課 題 認 識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらその在り方を研究する必要がある。</li> <li>・英語検定は、学力の向上やチャレンジ精神を培うためにも、小学生の児童も参加できる体制を作るなど機会の拡充を図る必要がある。</li> </ul> <p>学習会を行う場合、テキストの作成や採点に非常に時間を費やされることがあり、指導に必要な教師等の人数を増やす必要がある。</p>

<p>評価委員の 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 少人数学級、少人数授業、振り返り集中講座等、個に応じた指導は、個々の児童生徒の学力状況に応じた指導ができ、学力向上に大変有効であり、今後も継続して取り組まれない。</li> <li>• 「学力向上」を課題と捉え、向上への各取組が行われていることは評価できる。引き続き、児童生徒に、授業で「主体的で対話的な深い学び」が実現するよう努力してほしい。</li> <li>• 少人数教育の在り方検討の際、国語・算数（数学）等少人数授業しか授業経験のない、また、実際に少人数授業を受けてきた若手教員がいることも考慮しながら、授業改善等を検討する必要がある。</li> <li>• 受験者数の増加の実績をみても英語検定補助は素晴らしい。グローバル化の時代、国を挙げて国際理解や英語への関心・意欲・技能の向上が言われている。小学5・6年生の英語の教科化を見据えて、今後、小学生にも拡充される由、望ましいことである。ただ、英語が学外でそれを習う児童生徒だけのものにならないよう、より一層全ての児童生徒の英語力向上をお願いしたい。</li> <li>• 教育課程外の学習会は教職員に物理的時間や時間には表れない負担が予想される。児童生徒への学習効果が検証されているのであれば、学習会が継続できる具体的な支援策を望む。</li> </ul>
----------------------	---

事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 標準授業時数の確保</p> <p>ア 小学校 両小学校の全学年で、標準授業時数を上回るとともに、教育課程外の行事も計画通り実施できた。</p> <p>イ 中学校 全学年で、標準授業時数を上回るとともに、教育課程外の行事も計画通り実施できた。</p> <p>② 学力向上に向けた教科補習の取組 教育課程外の取組として、小学校では、毎週2～3日間の補習、毎日の朝学習を実施した。 中学校では、毎日の朝学習、定期テスト前の補習、夏季休業中の補習、中1振り返り集中講座、中2学力アップ事業、進路補習の補習学習を実施した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準授業時数の確保は、小・中学校とも確保できた。</li> <li>長期休業中を活用した補習学習、土曜日活用、行事の精選など、教育課程外時間での学力向上に向けた取組ができている。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時数の確保は、学力の保障や向上及び進路保障において必要要件である。そのため、授業時数の確保を最優先し、他の行事が編成しにくい状況にある。</li> <li>学校が楽しく心豊かな児童生徒の育成を目指した事業を、土曜日活用を含めてどう編成するかが課題である。</li> <li>地域の教育力（社会人講師、学校支援ボランティア等）を活用した学力向上に向けて教育課程内で取り組む方法を検討する必要がある。</li> </ul>		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準授業時数を確保することは重要である。</li> <li>地域の教育力の活用、土曜日の活用等による心豊かな児童生徒の育成に努められたい。</li> <li>標準授業時数を確保しつつ、教育課程外の行事も計画実施できたことは各校が工夫・努力されたからだと想像できる。</li> <li>教育課題は年々膨らむ様相がある。引き続き、ねらいや付けたい力を明確にし重要度を勘案しながら精選・工夫しての取組に期待したい。</li> </ul>		

事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>◇小学校陸上交歓記録会 10月8日(木) 大山崎小学校グラウンドにおいて開催 両小学校の第6学年児童が、全員種目の50m走とエントリー種目に出場し、走・跳・投において測定するとともに、競い合った。 エントリーA：走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ エントリーB：100m走、50mハードル、リレー ※中学校の行事と小学校の行事が合わず、中学校のグラウンドを会場として実施できなかった。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童は、各競技を通して、自分の体力・運動能力を把握できるとともに、合同開催により競いと向上への意欲を持って取り組むことができ、全力を出し切り、両校間の児童の交流を深めた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>本記録会は、体力や運動能力の向上を測る契機であり、児童にとっては自己の全力を出しきる楽しさや喜びを味わう大切な機会である。</li> <li>本記録会が、両校の児童の体力づくりや運動能力の向上に結びついた取組になることがさらに期待される。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校での開催は児童にとって貴重な体験であり、スケジュールを合わせて是非実施されたい。</li> <li>専門分野の社会人講師を招き一流のものを目の当たりにすることは、児童の将来にとって貴重な体験であり、検討されたい。</li> <li>両小学校が「陸上種目」で交流できる良い機会となっている。ただ、本記録会が体育授業をはじめ日常の体力作りに結び付く取組にするには工夫が必要である。</li> </ul>		

事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 健全育成のための体験活動推進事業  大山崎小学校と第二大山崎小学校両校の第5学年児童が、滋賀県蒲生郡日野町での宿泊を含む体験学習を実施した。  活動日：10月21日(水)、22日(木)、23日(金)  体験内容：近江日野田舎体験推進協議会による自然・勤労生産・文化芸術・交流等に関わる活動、同場所にて3～4人に別れ農家に民泊</p> <p>② 「KYO発見 仕事・文化体験活動」推進事業  &lt;大山崎小学校 4年生&gt;  実施日：6月～平成28年1月  実施内容：大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫  &lt;第二大山崎小学校 4年生&gt;  実施日：平成28年1月26日(火)  実施内容：保育所、幼稚園、消防署、公共施設、動物病院、商店等の事業所にて、仕事についての学習や体験活動  実施日：平成27年9月9日(水)  実施内容 生け花体験  &lt;大山崎中学校 2年生&gt;※キャリア教育として「職場体験活動」を実施  実施日：11月12日(木)・13日(金)  実施内容：保育所、消防署、公共施設、福祉施設、美術館、商店等の事業所21カ所にて、仕事についての学習や体験活動</p> <p>③ フェンシング体験  実施日：6月5日(金) 午前：大山崎小学校、午後：第二大山崎小学校  対象児童：第3学年  実施内容・基本的なルールや用具の名前や使い方  ・マスクやユニフォームを着用しての試合形式のゲーム  ・国体選手による模範試合の披露  ※指導は京都フェンシング協会に依頼し、大山崎中学校フェンシング部顧問の稲垣菜採教諭も指導に当たる。</p> <p>④ もうすぐ1年生体験入学推進事業  &lt;大山崎小学校&gt;  5月30日(土) 「運動会に参加しよう！」 30m走の参加  10月10日(土) 学校探検「学校ってどんなところ？」教室の見学や授業参観等  3月 3日(木) 体験入学「小学校をたんけんしよう」 授業参観、学習体験、交流あそびなど  &lt;第二大山崎小学校&gt;  5月30日(土) 「小学校の運動会！よーいどん！」 30m走の参加  11月24日(火)・26日(木) 「1年生との交流会」 生活科の学習体験、1年生との交流など  2月23日(火) 「5年生との交流会」 学校案内と交流遊び</p>		



<p>成 果</p>	<p>① 健全育成のための体験活動推進事業の農家での民泊は、日常生活では味わえないような貴重な体験をすることができた。また、宿泊先の方々の温かな心に触れ合うことができ、楽しかったと感想を述べており、児童のコミュニケーション能力の醸成が図れた。また、両校が同日に、同じ取組を実施することにより、交流だけではなく協調性も育成させることができた。</p> <p>② 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」は、キャリア教育の一環として取り組み、勤労体験をすることで、その楽しさや厳しさを知るとともに、地域社会との交流や地域の産業への関わりを深めることができた。</p> <p>中学校では、体験を通して望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、地域社会に貢献する意欲も高められた。</p> <p>③ フェンシング体験事業は、毎年、小学校第3学年において実施し、児童にとってフェンシング競技への関心を高める貴重な機会となっている。こうした取組もあり、大山崎中学校のフェンシング部では、専門的な指導力のある顧問の指導の下、部員数も増加し活発な活動と優秀な成績（全国中学校フェンシング選手権大会3位、フェンシングアジア選手権優勝等）を残している。</p> <p>④ もうすぐ1年生体験入学推進事業では、入学前の子ども達が、小学校の教室で授業体験をするなど、小学校の学習活動に参加し、小学校入学への不安の解消を図るとともに、学習に対する興味を持ち、新たに始まる学校生活への期待を高めることができた。また、小学校としては、入学前の幼児の様子を見ることができ、幼児の特性を掴むことができた。</p>
<p>課 題 認 識</p>	<p>① 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」を通して、得たものや学んだことを生かし、社会の一員としての規範意識の育成が図られることを期待している。</p> <p>② 児童はフェンシング体験授業において、フェンシング競技への楽しさや面白さを体験することができ、今後、フェンシング競技への参加児童生徒の拡大が期待される。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学を通して、入学後の生活習慣や学習習慣の変化への対応など、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について期待される。</p>
<p>評 価 委 員 の 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校では珍しいフェンシング部に専門的な指導ができる顧問がいることは大変心強く、全国レベルの技量が維持されるよう期待する。</li> <li>・ 補助金削減の厳しい中ではあるが、児童にとって他地域での体験活動は貴重な体験であり、継続されることを望む。</li> <li>・ もうすぐ1年生体験入学は、入学前児童にとって小学校の様子を知ることの出来る機会であり、指導者同士の交流も含め保幼小連携も期待される。</li> <li>・ 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」での活動は意義ある取組をされているが、地域の特色を生かしたエゴマの栽培体験を両小校の体験とさせられないか。</li> </ul>

事務事業名	特色ある学校づくりⅢ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇土曜日を活用した授業・行事等の実施		
	① 土曜活用・・・学期に1回実施、午前中授業で振替休日はなし		
	大山崎小学校	第二大山崎小学校	大山崎中学校
	5月9日 教科授業(参観) 学校説明会	4月25日 教科授業 1年生を迎える会 (参観)	6月6日 教科授業 学級懇談会・学校紹介
	10月10日 教科授業(参観)	12月19日 教科授業 ありがとう会(参観)	11月14日 教科授業(参観) 学級懇談会・進路説明会
1月16日 教科授業 大縄大会・書初め展	2月27日 教科授業 6年生を送る会(参観)	2月13日 震災学習 学年懇談会・進路説明会	
事業実績	② 土曜授業・・・振替休日あり		
	大山崎小学校	第二大山崎小学校	
	/	5月16日 教科授業(参観) 除草作業・学校説明会	
		5月30日 運動会	
		11月28日 教科授業(参観)・乙訓小学生駅伝	
③ 教育課程外としての土曜日を活用			
<小学校>			
学年交流会(全学年)			
<中学校>			
部活動、学校クリーンデー、部活動参観・懇談、英語検定			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①の土曜日を活用した授業は、授業時間数の確保において有効であった。時間数だけでなく行事等の編成に余裕が生まれた。</li> <li>土曜日に学校公開の取組を行うことで、保護者の参加数が増えた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい。また、保護者参観の環境を整えるため、小・中学校で異なる日を設定する必要がある。</li> <li>教職員の勤務環境を整える必要がある。</li> </ul>		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"><li>• 各種団体との日程調整にはご苦労されているところであるが、いろいろな行事を実施していくためには必要と思われるので、できる限り実施されたい。</li><li>• 土曜参観は、保護者が児童生徒の学校生活の様子を知る上で有効であり、是非とも継続されたい。</li><li>• 児童生徒・保護者・教職員等の負担が少ない取り組み方を模索しながら、児童生徒への成果を期待したい。</li></ul>
-------------	--

事務事業名	特色ある学校づくりⅣ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① リーフレット「大山崎っ子できます10」の活用 小・中学校で身に付けてほしい10項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の4段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子 できます10」を作成した。全児童生徒に配布したり、各教室での掲示や学校だよりでの紹介をしたりして、毎日の生活で意識することや保護者への啓発と協力を願った。 学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。</p> <p>② 作品応募の成績や活動の実績 小・中学校とも、各種団体の作品応募に積極的に取組み、児童生徒のもつ能力の育成と発揮する機会を持たせ、多くの優秀なる評価を得た。また、スポーツ活動にも実績を残した。(以下はその一例)</p> <p>&lt;大山崎小学校&gt; 「子ども読書本のしおりコンテスト」佳作、「人権擁護啓発ポスターコンクール」優秀賞、「京都発!手紙(メール)でむすぶ家族ふれあい大賞」入賞、京都新聞「お話を絵にするコンクール」佳作、「明るい選挙啓発ポスター」大山崎町明るい選挙推進協議会長賞など</p> <p>&lt;第二大山崎小学校&gt; 「青少年読書感想文全国コンクール」京都府図書館協議会長賞、「全国教育美術展」特選1点・入選6点、「京都新聞書き初め展」京都新聞賞など</p> <p>&lt;大山崎中学校&gt; 「京都府吹奏楽コンクール」銀賞、「夏季府大会」バドミントン個人優勝・新体操ロープ2位、「全国中学生フェンシング選手権大会」3位など</p>		
成果	<p>① 日々の生活の中で大切にしたいことや9年間を通して醸成したい項目を統一して掲げたことにより、これに基づき一貫性のある指導をすることができ、挨拶や時間を大切にするなど項目をはじめ効果が上がっている。</p> <p>② 各種団体への作品応募を取り組むことにより、学習によって得た能力や特技の向上と一層の意欲喚起を図ることができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、更に効果が現れている。</p>		
課題認識	<p>① 教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、取り組む項目の徹底が不十分である。学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。</p> <p>② 教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない。</p>		
評価委員の所見	<p>・リーフレット「大山崎っ子できます10」は9年間の見通しを意識し作成されているのが良い。また、達成するためにスモールステップで目当てを決め、啓発されたのも良い。引き続き、保幼小連携で就学前児、保護者等にも啓発するなど、本町の子ども達の育成に総掛かりで取り組む機運の醸成に期待したい。</p> <p>・各種作品募集に積極的に応募され、児童生徒の励みにもなり評価できる。多彩</p>		

	な募集全てには対応できないから、教育課程に取り込めるものを精選し、年度当初に位置付けておくと指導が可能となる。
--	---

事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>1 「いじめ問題への取組の徹底」(教育長通知5月29日)            全校生徒を対象とした3回のいじめ問題調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査方法：アンケート及び面接調査による実態把握                (3回目は面談・日常の観察等による実態把握)</li> <li>・調査結果を学校評議員やPTA本部役員に説明</li> <li>・学校だよりを通して概要報告</li> <li>・調査の対象期間は4月から各調査実施日</li> </ul> <p>① 1回目 7月 1日から 7月17日まで            ② 2回目 12月 1日から12月22日まで            ③ 3回目 3月末まで</p> <p>2 人権教育の学校の取組            &lt;大山崎小学校&gt;なかよし集会、人権週間の設定、学年毎の人権学習            &lt;第二大山崎小学校&gt;人権の木、人権週間の設定、学年毎の人権学習            &lt;大山崎中学校&gt;人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、教育相談の実施(6、11月)</p> <p>3 学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施(平成26年4月より実施)及び校内いじめ防止対策委員会の定期的(ほぼ隔週)な実施</p> <p>4 町いじめ防止対策推進委員会(専門職5人)、いじめ防止連絡協議会(乙訓の小中学校生徒指導主任)の実施</p>		
成果			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認することができ、適切な指導することができた。</li> <li>・アンケート及び面接による調査を年複数回行うことにより、早期発見につながるとともに、指導後の経過についても把握することができた。</li> <li>・学校におけるいじめ防止基本方針に添っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な会議の実施により、事象に対する共有と組織的な指導をはじめ、教員のいじめに関する意識が一層高まっているといえる。</li> </ul>
課題認識			<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの問題の重要性を認識し、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が重要である。</li> </ul>
評価委員の所見			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乙訓地域では人権擁護委員による中学生対象の人権教室も実施されており、あらゆる教育活動での人権教育の推進を期待する。</li> <li>・アンケート、面接、研修会等を行い、未然防止、早期発見・早期対応に努力された。今後も形骸化しないようにして、一人一人が自尊感情や自己有用感が持てるような居場所作り、いじめを許さない学校作りに取り組んでいただきたい。</li> <li>・チーム学校として、スクールカウンセラーや関係機関との連携を日常的に行えるように意識してほしい。</li> </ul>

事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 特別支援学級の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 3学級（知的障害：2学級、自閉症・情緒障害：1学級）</li> <li>・第二大山崎小学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級）</li> <li>・大山崎中学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級）</li> </ul> <p>②通級指導教室の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 通級児童数35名</li> <li>・第二大山崎小学校 通級児童数23名</li> </ul> <p>③ 個別の特別支援教育の充実</p> <p>特別支援教育支援員（町単費）の配置（増員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 3人 ※平成25年度から配置</li> <li>・第二大山崎小学校 1人</li> </ul> <p>④ 大山崎町就学指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町就学指導委員会総会（6月15日、10月26日、2月22日開催）</li> <li>・ // 就学前部会（8月7日、10月6日、11月27日開催）</li> <li>・ // 在学部会（10月13日、12月8日、平成28年1月22日開催）</li> <li>・ // 特別支援教育推進部会（12月18日開催）</li> <li>・相談活動等（9月8日、9月9日、9月16日、9月18日、9月24日、9月25日、9月28日実施）</li> </ul> <p>平成25年度から、審議結果をより丁寧に該当未就学児童の保護者に経過説明と今後の就学指導をするために、従来の所属長等だけではなく、就学先校長や事務局も入り、連携して保護者との就学指導に当たっている。そして、来年度に向けて、特別支援教育がさらに充実するために、町就学指導委員会の名称をより適切な教育支援に力をいれていく観点で、大山崎町教育支援委員会に改正し、併せて規則改正も行った。</p> <p>⑤ 特別支援学級林間学習（7月27、28日実施）、サマースクール（7月23、24、25、30日実施）、特別支援学級「卒業・進級を祝う会」（2月18日実施）の取組</p>		
成果	<p>① 特別支援教育支援員の配置により町内二小学校の特別支援学級では、個々の児童との関わりが深まり、児童の学校生活面において、情緒の安定につながり、また、学力向上にもつながってきている。</p> <p>② 大山崎町就学指導委員会の審議結果等を該当未就学児童の保護者に関係機関の長等が入って伝えることにより、保護者、保育所・幼稚園等及び小学校の連携が深まった。</p>		
課題認識	<p>① 保育所職員や幼稚園教諭の中で、さらに「知的障害」と「自閉症・情緒障害」の障害種別の理解を深めてもらうため、保・幼・小の連携を密にして、特別支援学級の参観・交流を深め、大山崎町就学指導委員会特別支援教育推進部が企画する町特別支援教育研修会の内容をさらに充実する必要がある。</p>		

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各校に知的障害及び自閉症・情緒障害、それぞれの学級が設置されていることは非常に評価できる。</li> <li>• 両小学校に設置されている通級指導教室は、利用児童数も多く、その役割は重要である。現在、大山崎中学校においては通級指導教室が未設置であるため、その設置が望まれる。</li> <li>• 特別支援教育を実施する上で、保・幼・小の連携は重要であり、今後も連携を密にし、適切な指導が実施されることを期待する。</li> <li>• 平成27年度から京都府のいわゆる「いきいき条例」が施行され、平成28年度からは「障害者差別解消法」も施行される。今後も「大山崎町教育支援委員会」への名称変更に伴う内容の充実を期待する。</li> <li>• 特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。専門性のある人材が配置されるよう願う。</li> </ul>
---------------------	---



事務事業名	小学校給食 中学校スクールランチ試行的導入事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 学校給食実施 実施児童数 901人(平成27年5月1日現在) 米飯給食 週3.5回実施 ② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 給食施設の監視指導及び、給食調理員・栄養教諭(職員)を対象に衛生研修会を実施。また、給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施。 ③ 学校給食調理等業務委託実施(全小学校) ④ 中学校スクールランチ業務委託の実施		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食の給食調理員・栄養教諭(職員)を対象とした衛生研修会では、スライドを使用した研修方法を実施し、給食調理員・栄養教諭(職員)の衛生管理の意識向上を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	① 給食室の衛生管理をさらに徹底するためには、施設改修や給食備品の更新等が必要であるが、多額の費用がかかるため、すべてを実施することが困難である。 ② 中学校スクールランチについては、平成27年度を以って事業を中止した。そこで、昨今の社会情勢の変化や就労形態の多様化などに鑑み、今後、中学校給食実施に向けた検討をすすめる。		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校については、従来からの自校方式による給食が定着しており、児童の健全な育成に寄与している。また、その中で栄養教諭による食育の指導も重要な役目を担っており、今後も継続されたい。</li> <li>両小学校の給食設備は老朽化が進んでおり、計画的な改善が望まれる。</li> <li>中学校のスクールランチの中止は実態を鑑みた決断である。今後、生徒・保護者等のニーズに合った食の提供が検討されるよう期待する。</li> </ul>		

事務事業名	教師力向上事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 大山崎町学力向上対策会議  児童生徒の学力の充実・向上を目指し、町学力向上対策会議（担当校長、担当教頭、各校教務主任、指導主事で構成）を年5回実施して、各校の府学力診断テスト（小4、中1、中2実施）、全国学力・学習状況調査（小6、中3実施）及び標準学力調査（小2、3、5実施 町費負担）の分析を行い、成果と課題を交流し、小中学校間の系統的な課題克服に向けた方策の検討と実践に取り組んだ。</p> <p>② 大山崎町「教師力向上小・中学校連携」教職員研修会  本研修会は、町学力向上対策会議で企画・立案し、中学校教師の小学校への乗り入れ授業や小・中連携を活かした研修会を実施した。  全体教職員研修会は年6回実施し、第5回全体教職員研修会は第二大山崎小学校を会場に、各教科で中学校の教師がT1で、第二大山崎小学校の担任がT2になり、公開授業を実施した。</p> <p>&lt;第1回&gt;  開催日：平成27年5月20日 於大山崎中学校 参加人数：約75名  内容：全体研修会、小・中連携各教科部会</p> <p>&lt;第2回&gt;  開催日：平成27年6月24日 於大山崎中学校 参加人数：約75名  内容：公開授業、全体研修会、小・中連携各教科部会</p> <p>&lt;第3回&gt;  開催日：平成27年8月3日 於大山崎中学校 参加人数：約75名  内容：小中連携各教科部会、全体会</p> <p>&lt;第4回&gt;  開催日：平成27年9月29日 於大山崎小学校 参加人数：約75名  内容：授業公開、事後研究会</p> <p>&lt;第5回&gt;  開催日：平成28年1月27日 於第二大山崎小学校 参加人数：約75名  内容：中学校の教師T1、第二大山崎小学校の担任がT2になっての公開授業（1年、3年、4年、5年、6年）、小・中連携各教科部会</p> <p>&lt;第6回&gt;  開催日：平成28年2月29日 於大山崎中学校 参加人数：約75名  内容：今年度のまとめ、次年度の取組日程の決定</p> <p>③ 町立小・中学校新規着任教職員研修会  本研修会は、若手人材育成と本町の特色の理解を深めることを目的に継続的に実施している。午前の部では、新規教職員の研修会を実施し、午後の部では、新規教職員と着任教職員を対象に大山崎町の史跡学習を行った。</p> <p>開催日：平成27年7月28日 参加人数：14名  内容：午前（9時30分から11時20分）は、新規教職員対象の研修会  午後（13時から17時）は、新規教職員と着任教職員対象に、大山崎町の歴史についての講話と、その後は大山崎町内の史跡名所等の現地学習</p>		

事業実績	<p>④ 道徳教育研修会  本研修会は、児童生徒に道徳的実践力を育てるため、教師の授業力の向上を目指して夏季休業中に実施した。  （講師：京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事）  開催日：平成27年8月3日 参加人数：約70名  内容：「道徳教育の進め方」をテーマに講師が教師参加型の研修会で、授業実践に活用できる講話をした。</p> <p>⑤ 研究発表会  ア 大山崎中学校では、平成26・27年度京都府教育委員会、大山崎町教育委員会指定「学力向上システム開発校」を受け、研究発表会を実施した。  開催日：平成27年11月11日 参加人数：96名  内容：公開授業、教科部会、全体会  イ 第二大山崎小学校では、平成27年度京都府乙訓教育局研究指定、大山崎町教育委員会指定「オアシス校」を受け、研究発表会を実施した。（外国語活動の公開授業を5・6学年で実施）  開催日：平成28年1月15日 参加人数：約50名  内容：公開授業（外国語活動 5・6年）、全体会、事後研究会、全体会</p> <p>⑥ 指導主事・教育委員学校訪問  町「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、各学校の課題について必要な指導助言を行うことを主な目的として、「指導主事・教育委員学校訪問」を6月に町内全小・中学校で実施した。中心授業と全学年・学級での公開授業を参観し指導講評を行った。  開催日：平成27年6月12日 大山崎小学校 参加人数：18名  内容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言  開催日：平成27年6月18日 第二大山崎小学校 参加人数：8名  内容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言  開催日：平成27年6月24日 大山崎中学校 参加人数：8名  内容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言</p>
成果	<p>① 学力分析から課題を明らかにし、授業改善を図り、小・中連携の各教科部の取組の中で、小学校の教員が中学校の教員から指導方法の専門性を学び、また、中学校の教員は小学校の教員のきめ細かい授業の準備等を学び、小・中学校の教師の授業力の向上が図れた。</p> <p>② 本町では、夏季休業中の教職員の道徳研修会は十数年続いていて、伝統的な取組である。その取組の成果として、「指導主事・教育委員学校訪問」の公開授業では、道徳の授業を行う教員が増えてきた。資料の選定や授業内容も児童生徒の心に響くようになり充実してきた。</p>
課題認識	<p>若手教職員が増えていく中、ミドルリーダーの育成と若手教職員の育成と相互の授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。</p>

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本町は2つの小学校と1つの中学校というコンパクトな学校構成になっており、小・中連携を図りやすい環境であり、今後とも質の高い授業を実施できるよう、共通認識のもと授業改善に向け研究されたい。</li> <li>• 小中連携による質の高い授業への取組は素晴らしい。今後も英語も含め計画的に授業改善に向け研究されたい。</li> <li>• 新規着任教職員研修は、児童生徒と「大山崎町」を学ぶ上で欠かせない意義あることであり、今後も継続して実施されることを望む。</li> <li>• 教職員の世代交代が進む中、授業力(指導技術)の継承、学習指導要領改訂に向けた工夫改善、危機管理意識等の特にミドルリーダーや若手の人材育成が急務である。今後もOJTを含め、意識的に育成を図る必要がある。</li> </ul>
---------------------	---

事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>◇通学路の安全対策</p> <p>① 交通量調査の実施</p> <p>京都第二外環状道路側道の供用開始以降、JA大山崎付近で、渋滞回避のため町内道路に流入する他府県ナンバーの通過車両が増加したことから、平成25年度、平成26年度に引き続き、平成27年5月14日(木)に登校時間帯の30分間、通過交通量調査を実施。第1回調査時より通過車両総台数の減少を確認。</p>		
成果	<p>継続的な交通量調査を実施し、通過車両数を把握することができた。それにより、通学路安全確保に向けた施策展開へ繋がるものとする。</p>		
課題認識	<p>① 年間を通した子ども安全見守り隊、PTAによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、ハード面も含めた道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関が連携しての継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。また、日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も必要不可欠である。</p> <p>② JA付近交差点の通過車両台数は京都第二外環状道路側道の供用開始時から比べ大幅に減少したが、今後の町内道路状況の変化に合わせ危険箇所の抽出、また必要な安全対策を検討する必要がある。</p> <p>通過台数が減少すれば速度を出すという傾向があるため、この状況も考慮し安全対策を検討していく必要がある。</p>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二外環状道路の完成後、大きく変貌した周辺道路も、少し時間が経過し落ち着きを見せているようであるが、今後も情報の収集を重ね、交通安全に努められたい。</li> <li>・防犯、防災、交通安全等近年児童・生徒を取り巻く環境は大きく変化しており、この変化に遅れることのないよう、家庭・地域・行政が連携し、取り組みを強化する必要がある。</li> <li>・児童生徒自身に「自分の身は自分で守る」意識の指導も期待する。</li> </ul>		

事務事業名	幼稚園就園奨励事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 大山崎町私立幼稚園就園奨励費補助金 保護者の町民税の所得割課税額に応じて補助金を交付 (園児172人、総額24,190,800円)</p> <p>② 大山崎町私立幼稚園児教材費補助金 10月1日現在、私立幼稚園に在園している3歳以上の園児の保護者全員に交付 保護者に園児1人あたり42,000円 (園児178人、総額7,476,000円)</p> <p>③ 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付 (実績総額108,000円)</p> <p>④ 大山崎町私立幼稚園心身障害児教育振興補助金 障がいのある幼児の教育に要する人件費に対し補助金を交付 (対象園0、総額0円)</p> <p>⑤ 大山崎町乙訓私立幼稚園教会研究補助金 協会が行う教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付 (乙訓私立幼稚園協会、総額65,000円)</p> <p>⑥ 第3子無償化事業 多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するために補助金を交付 (対象園児13人、総額1,808,400円)</p>		
成果	<p>① 私立幼稚園児の保護者の経済的負担を軽減することができた。また、第3子無償化事業を創設し、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに繋がった。</p> <p>② 大山崎町私立幼稚園設備費補助金を交付することより、私立幼稚園の設備、備品の整備を促進することができた。</p> <p>③ 教職員の研修会等を支援することにより、幼児教育の振興を図ることができた。</p>		
課題認識	<p>国の基準で交付している私立幼稚園就園奨励費補助金は、平成27年度において国庫補助金が平成26年度に比べ増額されたものの、町の負担が大きい状況にある。</p> <p>24年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額20,877,600円 (国庫補助金4,972,000円 町単費15,905,600円)</p> <p>25年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額21,724,200円 (国庫補助金5,297,000円 町単費16,427,200円)</p> <p>26年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,710,400円 (国庫補助金6,141,000円 町単費18,569,400円)</p> <p>27年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,190,800円 (国庫補助金7,038,000円 町単費17,152,800円)</p>		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"><li>• 就園奨励費補助金は、国庫補助率が減少しているため町の財政負担が大きくなっている。国庫補助率が引き上げられるよう国に要望する必要がある。</li><li>• 当該補助金に関する事務が複雑化しており、事務の簡素化も望まれるところである。</li><li>• 子どもの貧困が教育に悪影響を与えていることが、社会問題化していることに鑑み、今後も経済的な支援が継続されることを期待する。</li></ul>
-------------	--

事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>&lt;大山崎小学校&gt;</p> <p>① 大山崎小学校北校舎1・2Fトイレ改修工事</p> <p>② 大山崎小学校北校舎屋上屋根防水補修工事 等</p> <p>&lt;第二大山崎小学校&gt;</p> <p>① 第二大山崎小学校外部鉄骨階段塗装改修工事</p> <p>② 第二大山崎小学校給食室改修工事</p> <p>③ 第二大山崎小学校ガス配管改修工事</p> <p>④ 第二大山崎小学校空調設置工事</p> <p>⑤ 第二大山崎小学校シャッター改修工事 等</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校のトイレ改修、第二大山崎小学校の空調設置工事等、児童へ良好な教育環境を提供できた。</li> <li>・両小学校校舎において、散見する学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校施設は建築年数が40年以上と相当経過しており、改修を要する部分が散見されるため、児童が安心して学校生活を送ることができるよう計画的な教育環境の整備が必要である。また、今後の児童生徒数の変化を見極め、計画的な施設整備が必要である。</li> <li>・中学校においては中長期的な視点に基づいた計画的な整備を実施し、施設の保全を図ることによって、良好な教育環境の維持に繋げる必要がある。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両小学校のトイレ改修は、計画的に進んでおり、評価できる。また、空調設備についても、普通教室は全て設備され、良好な教育環境を提供できている。</li> <li>・両小学校とも施設の老朽化が進んでおり、改善が必要な箇所が多数ある。広域避難場所に指定されていることもあり、計画的な改善に取り組んでもらいたい。</li> </ul>		



事務事業名	ときめきチャレンジ推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>5月16日 ブックフェアと人形劇 参加者:100名 協力:竹の子文庫、小倉文庫</p> <p>6月20日 ウキウキアフリカ大作戦～アフリカの楽器でリズムを奏でよう～ 参加者:22名 協力:KOKOROSTAR 大前 康多 氏</p> <p>7月11日 キラキラ光るまーるい糸灯籠～風船と糸を使って灯籠を作ろう～ 参加者:28名 協力:京都造形芸術大学</p> <p>9月26日 チアリーディング ～リズムに乗って体を動かそう～ 参加者:30名 協力:京都西山短大小児体育担当 小林 志保 氏</p> <p>10月17日 黒もじストラップとヨシ笛、椿の葉っぱ笛をつくろう 参加者:30名 協力:ガイドの会 上田 英俊 氏</p> <p>11月24日 おやつをつくろう ～野菜でつくる三色団子～ 参加者:24名 協力:Relish 森 かおる 氏</p> <p>12月12日 ビニール凧に絵を描こう ～正月の空に手作り凧をあげよう～ 参加者:17名 協力:ときめきチャレンジ推進事業運営委員</p> <p>1月23日 体験!押し花アート 参加者:15名 協力:ふしぎな花倶楽部 西田 幸恵 氏</p> <p>3月5日 チャレンジ・ザ・ゲーム 参加者:30名 協力:京都府レクリエーション協会 今西 啓員 氏</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総勢400名近い児童が本事業に参加し、土曜日を中心とした学校時間外の時間を活用して心身の健全育成に資することができた。</li> <li>・例年実施している恒例活動に加え、新しい内容の活動を織り交ぜることにより、定期的に参加している参加者の慢性化を防止しているとともに、参加者の安定的な確保につながっている。</li> <li>・社会教育委員の中から事業の講師を依頼し、社会教育関係者の有機的な活用を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	<p>放課後の時間の有効活用という観点から、土曜日にとどまらない事業の在り方を模索していく必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育団体と協働して様々な取組を行い、集客されている。ただ、月に一度ではなく、放課後の子ども達の居場所作りという観点で、放課後児童クラブも視野に入れ、工夫していく必要がある。</li> </ul>		

事務事業名	防災体験教室	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>8月5日・8月6日 結団式・防災キャンプ（場所：町立中央公民館） 参加者：7名 協力：大山崎町 総務部 政策総務課</p> <p>10月24日 秋の社会見学（場所：大阪市浪速区大地震両川口津波記石碑、大阪市立阿倍野防災センター） 参加者：6名 協力：大阪市阿倍野防災センター</p> <p>12月20日 消防署見学（場所：大山崎消防署） 参加者：4名 協力：大山崎消防署・長岡京消防署</p> <p>3月25日 調理実習・解団式（場所：町立中央公民館） 参加者：5名 協力：大山崎町食生活改善推進員協議会</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度から旧事業を更新するかたちで実施し、当初の申込者7名が1年間を通じて「防災」をテーマとした体験学習を受講した。1つのテーマに対して1年をかけて取り組む事業は初めての試みであったが、事故や怪我なく、体験を通じた有機的な学習を提供することができた。</li> <li>近年、自然災害による被害が各地で相次ぐ中、災害を、発生時の被害や復興の現状、歴史資料からの教訓等の多角的な観点で考えることを学ばせることができた。各活動の終了時に実施した振り返りでは活動の趣旨を踏まえた考察や感想が出され、能動的な学習につなげることができた。</li> </ul>		
課題認識	<p>申込者の総数が7名と少数であるため、活動の内容や参加費、広報の方法等に検討の必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアリーダー養成講座からの大きな方向転換であるが、事業の内容を十分精査し、今後の事業のあり方を検討されたい。</li> <li>参加者が7名と少数であり、参加費、広報の方法等についても検討が必要である。</li> </ul>		

事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>8月19日 大山崎町人権教育研修 演題：「子どもの人権が尊重される共生社会に向けて」 場所：中央公民館 参加者： 80名</p> <p>12月9日 大山崎町人権教育研修 演題：「『適切に守られる』ことと『適切に育てられる』こと～児童虐待防止も含めて子どもの人権を考える～」 場所：中央公民館 参加者： 73名</p>		
成果	<p>個性・環境・文化・価値観が異なる人々が、共に生きる（暮らす）ためには、たくさんの人々が理解を深めることが大切であることから、毎年多くの参加者がある当該研修について継続的な実施が図られた。</p>		
課題認識	<p>すべての“人権問題”の解決に向け、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けるために、さらに継続的に学ぶ機会を提供する必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年8月の人権強化月間に合わせて開催されている本事業は、人権問題を考える良い機会となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>・人権問題をいろいろな切り口から考えることは大切であり、研修会を年2回と固定せず、多くの学習機会を設けて人権意識の高揚に努められたい。</li> <li>・各学校のPTA研修の中に「人権研修会」が位置付いていると良い。さらに、この事業を学校教育との連携で進められないか。</li> </ul>		

事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>平成28年1月11日 第63回大山崎町成人式            第1部 式辞、祝辞、新成人の誓いの言葉、集合写真            第2部 スライドショー、〇×クイズ、ビデオレター            会場：町体育館            スタッフ 前日7名 / 当日15名            第2部実行委員 4名            町内新成人：対象129名 出席77名 出席率59.7%            町内外合わせた出席数 男36名 女44名 総数80名            記念品：天王山キャンドル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誓いの言葉発表の新成人は、対象となる新成人で、中学3年生当時生徒会長を務めた方に依頼。その年の生徒会役員が全員女性だったため、男性の発表者はなし。快く引き受けていただき、発表も堂々としていた。</li> <li>第2部実行委員に4名の応募があり、数回の打合せ会議を実施。</li> <li>〇×クイズ、スライドショーは若者らしい感性で、生き生きと楽しい内容となっており、参加者にも好評に感じた。</li> <li>ビデオレターは、小学校6年生当時の恩師にも出演いただいたが、時間的に長くなってしまった印象を受けた。</li> <li>また、企画をした実行委員が授業やアルバイトのため日中先生に会うことができず、結果としてほぼ生涯学習課が撮影することとなってしまった。</li> <li>先生方も教え子に会いたそうで、申し訳なかった。</li> <li>体育館内にロールマットを引くことを止めたため、準備や片付けにかかる時間が大幅に短縮された。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>厳粛な第1部の式典と、新成人主体の躍動感ある第2部で、バランスの取れた内容になったと思われる。</li> <li>怪我人や場を乱すような参加者はおらず、円滑に執行することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部の関係者等と連絡調整が必要なため、余裕を持ったスケジュールリングが必要である。</li> <li>来場時は集中して混雑するため、一時的にスタッフの人数に余裕がなくなる。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者自らが立案・実施する実行委員会形式は、評価できる。今後も同形式を維持するため、実行委員をしっかりと確保できる手立てを考えられたい。</li> <li>中学校で学んだ頃の同窓会的な役割も担っており、参加してよかったと思えるような事業の実施が望まれる。</li> </ul>		

事務事業名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																					
事業実績	<p>放課後児童クラブの開設（5クラブ） なかよしクラブ1・2、ともだちクラブ、でっかいクラブ1・2</p> <p>①小学校の児童数が減少する中、放課後児童クラブへの入会児童の割合は近年高い率で推移しており、本事業の社会的な役割は大きくなっている。</p> <p>②障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、指導員の加配体制を整え、可能な限りの受け入れを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入会対象児童：町内在住の小学1年生～4年生（支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については5、6年生も入会可）</li> <li>・平日（月～金）：下校時から午後6時</li> <li>・土曜日：午前8時30分から午後6時</li> <li>・長期休業日（夏季を含む。）及び振替休校日：午前8時30分から午後5時30分</li> </ul> <p>【平成28年3月末現在各クラブの在籍児童数】</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1) なかよしクラブ1</td><td>.....</td><td>44人</td></tr> <tr><td>2) 〃 2</td><td>.....</td><td>45人</td></tr> <tr><td>3) ともだちクラブ</td><td>.....</td><td>35人</td></tr> <tr><td>4) でっかいクラブ1</td><td>.....</td><td>37人</td></tr> <tr><td>5) 〃 2</td><td>.....</td><td>40人</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: right;">計 201人</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: right;">(前年198人)</td></tr> </table>			1) なかよしクラブ1	.....	44人	2) 〃 2	.....	45人	3) ともだちクラブ	.....	35人	4) でっかいクラブ1	.....	37人	5) 〃 2	.....	40人	計 201人			(前年198人)		
1) なかよしクラブ1	.....	44人																						
2) 〃 2	.....	45人																						
3) ともだちクラブ	.....	35人																						
4) でっかいクラブ1	.....	37人																						
5) 〃 2	.....	40人																						
計 201人																								
(前年198人)																								
成果	<p>年間を通したプログラムに基づき、異年齢の集団生活を通じて入会児童の健やかな育成を図ることができた。また、保護者に対しては、児童の安心・安全な居場所として、家庭に代わる生活の場を提供することができた。</p>																							
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの生活の連続性を確保するために、国が唱える学校との連携は、今後の事業運営に重要な要素である。</li> <li>・「大山崎町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に基づく基準を満たすよう、関係例規等の整備が必要となっている。</li> <li>・安全・安心な保育をより一層徹底するための新たなルール作り、事業内容の見直しが求められる。</li> <li>・加配児童の指導員の確保は、放課後児童クラブの運営の鍵であり、専門知識を備えた人材の確保・養成が急がれる。</li> <li>・年度ごとの各クラブの児童数の増減が激しく、入会児童数の正確な予測が困難である。</li> </ul>																							

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 入会児童が増加傾向にあることから、この事業の必要性が伺える。専門知識を備えた指導員の確保・養成が必要である。</li> <li>• 遊びの要素と学習の要素をバランス良く配する保育が望まれることから指導員の専門知識が必要である。</li> <li>• 今後は5年生・6年生も入会してくる可能性があり、施設も含めた総合的な計画性が必要である。</li> <li>• 「保護者が安心して働く、児童も健全に育つ」ために必要な施設。保育内容について指導者の研修も必要である。現在の研修履修状況はどの程度か。</li> <li>• 児童が学校の人間関係を放課後児童クラブに持ち込んだり、逆にクラブの人間関係を学校に持ち込むことがあるので、情報共有という意味でも学校との連携は必要である。</li> </ul>
---------------------	---

事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)										
事業実績	<p>施設の貸出業務使用許可、施設の維持管理</p> <p>一般使用団体は、2ヶ月前から当日に申請使用申請受付（サークル登録団体の使用申請は、3ヶ月前の20日から月末までに申請受付）</p> <p>【使用申請後のキャンセル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャンセルは、使用予定日から7日前までは8割返金</li> </ul> <p>【利用変更】使用申請後の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用予定日の3ヶ月後の末日まで変更可能。ただし1回のみとする。</li> </ul> <p>【休館日】毎週月曜日（年末年始：12月28日から12月31日、1月1日から1月4日まで）</p> <p>【開館時間】8時30分～21時30分まで</p> <p>【公民館施設管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保守点検業務の委託（清掃、警備、冷暖房、電気工作物、消防設備、自動ドア、建築業務等）</li> </ul> <p>&lt;利用状況&gt;</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中央公民館開館日数</td> <td style="text-align: right;">308日</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中央公民館利用件数</td> <td style="text-align: right;">3,397件</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中央公民館施設利用率</td> <td style="text-align: right;">34.2%</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中央公民館利用者数</td> <td style="text-align: right;">54,192人</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1日当たり（平均）</td> <td style="text-align: right;">175人</td> </tr> </table>			中央公民館開館日数	308日	中央公民館利用件数	3,397件	中央公民館施設利用率	34.2%	中央公民館利用者数	54,192人	1日当たり（平均）	175人
中央公民館開館日数	308日												
中央公民館利用件数	3,397件												
中央公民館施設利用率	34.2%												
中央公民館利用者数	54,192人												
1日当たり（平均）	175人												
成果	<p>利用者に固定化が見られ、横ばい状況にあるが、町民の身近な学習施設としての役割を果たしている。</p>												
課題認識	<p>今後の施設更新の方策等を検討し、公民館施設のサークル活動や学習しやすい環境の整備を図る必要がある。町民の多様な学習ニーズに対応する公民館の管理や運営について検討が必要である。</p>												
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化が著しく、平成28年5月以降は、本館ホールを使用していない状況にある。町民の公民館に対するニーズは多様であり、抜本的な対策が必要である。</li> <li>公民館運営実績から生涯学習施設としての役割も大きい。是非、施設・設備の更新案の早急な検討、併せて内容検討を期待する。</li> </ul>												

事務事業名	各種公民館講座事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;各種公民館講座&gt;</p> <p>10月21日 自力整体講座 参加者：23名 講師：小久江 理紗 氏</p> <p>10月24日 竹かごづくり教室 参加者：10名 講師：田中 益一 氏</p> <p>12月12日 干支絵付け体験教室 参加者：29名 講師：田村 博文 氏</p> <p>1月16日 笑いヨガ講座 参加者：27名 講師：杉永 裕子 氏</p> <p>1月30日 ピザづくり教室 参加者：19名 講師：杉山 幸子 氏</p> <p>2月20日 草木染め教室 参加者：5名 講師：馬場 正幸 氏</p> <p>2月20日 パーソナルカラー講座 参加者：13名 講師：宇野 菜央子 氏</p> <p>&lt;図書館事業&gt;</p> <p>4月25日 人形劇とブックフェア (内容) アフリカの太鼓演奏、人形劇「かちかち山」… 参加者：100名 出演：ミニシアターまる 中島香織 氏 ※ブックフェア…よく読まれている本や読み聞かせにお勧めの本(図書室から150冊)をご紹介します。</p>		
成果	<p>多くの町民の学習意欲・仲間づくりに答えるため、必要な施策であり効果は果たしていると考えます。より多くの町民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらうべく事業の推進を行った。</p>		
課題認識	<p>新しく公民館講座の取組みとして始めたが、受講生は少数の教室もありました。多様な学習機会の提供に向けた検討が必要である。</p>		
評価委員の 所見	<p>・幅広い年代の参加を促す事業は難しいにしても、学習参加可能な時に講座が用意されていることは有り難いはず。講座内容、広報等を検討し、さらに講座事業が充実していくことを期待する。</p>		



事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;子ども体験事業&gt;</p> <p>5月23日・24日 お琴入門講座 参加者：12名 講師：本部 千賀 氏</p> <p>7月29日8月5日 ジャグリング体験教室 参加者：18名 講師：末吉 正和 氏 他</p> <p>7月23日・30日・8月6日 夏休み子ども陶芸教室 参加者：31名 講師：山崎 正裕 氏</p> <p>8月19日 身近な科学遊び教室 参加者：21名 講師・協力者：長岡京市環境の都づくり会議</p> <p>8月21日 夏休みトールペインティング教室 参加者：28名 講師：坂本 依真里 氏</p> <p>11月30日 電池手づくり教室 参加者：20名 講師：日立マクセルエナジー（株）東出裕子氏 他3名</p>		
成 果	<p>子どもたちの好奇心をくすぐる各種体験事業を実施することで、自主性、協調性等をはじめ、多様な感動体験活動の場の提供ができた。</p>		
課題認識	<p>事業ごとに参加人数の実績を見ると、定員を超えている事業もあれば、定員に満たない事業も存在することから、毎年、効率的・効果的であるよう研究する必要がある。</p>		
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども体験教室事業は、子ども達が初めて体験する企画がほとんどであり、興味を持って接することのできる良い機会であり、今後も継続して実施されたい。</li> <li>可能な限り多くの参加者を見込める取組みにするには、日程、内容等、調整・検討が必要。地域や学校との連携で啓発することも必要である。</li> </ul>		

事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月1日 町中央公民館で開催</li> <li>・大山崎町社会教育関係団体が一齐につどい、ジャンルを超えた連携・交流を深めながら日々の活動成果を発表するとともに、心のふれあいを深め、地域文化の振興を図った。</li> <li>・地元の小中学生による作品展示、地域の中高生による吹奏楽の演奏、一般住民作品展示、行政展示、PRコーナーなど、</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天王山「ゆひまつり」と同時に開催したため、立地的にも老若男女多くの参加があり、地域の中高生の吹奏楽部の演奏は好評であった。</li> <li>・児童・生徒の作品展示や社会教育団体等の日頃の活動の成果を発表する機会となった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化のつどいを単独開催した場合の集客に課題がある。</li> <li>・社会教育団体等の活動の展示についても、会員の高齢化により、資材の搬入や会場当番等の役割分担が負担になっているとの声も年々大きくなっている。開催する場合は、多くの人が集えるような企画が必要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化のつどいは、町民の様々な活動の発表の場となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>・多くの人が集えるような企画が必要、という観点から、今後も、以前の「大山崎産業まつり」を継承するような地域振興イベント等との同時開催が望まれる。</li> </ul>		

事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;第16回公サ連まつり&gt; 中央公民館を拠点に活動する文化サークルの会員たちによる舞台発表や作品展示など、サークル相互の親睦、連絡調整、情報交換や平素の練習成果の発表のため、「第16回公サ連まつり」が6月13日(土)~14日(日)の2日間、大山崎町立中央公民館全館で開催された。 (舞台発表・展示発表・館内のスタンプラリー・竹林ボランティアによる竹細工コーナー設置)</p> <p>見学無料、申込不要 ※舞台、展示発表会場は自由に見学できた。 参加人数：600名</p> <p>主催：大山崎町公民館サークル連絡協議会 後援：大山崎町教育委員会</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サークルのメンバーは普段の活動や練習の成果を十分に発揮され、生き生きと輝いて見えた。</li> <li>来場者とサークルのメンバーの方の交流も生まれるなど有意義な機会が提供できた。</li> </ul>		
課題認識	<p>公民館サークル連絡協議会の加入団体の発表の場で中央公民館も全面協力しているが、使用備品が不足しており、今後計画的に充足していく必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の発表の場があることは大切である。学び、学んだことを生かすことは生涯学習の基本であり、さらなる充実・発展を望む。</li> <li>耐震の安全面から平成28年5月以降はホールを閉鎖するなど、公民館の施設に問題があり、ハード面での整備が求められている。</li> </ul>		

事務事業名	図書室運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)								
事業実績	<p><b>中央公民館図書室図書館運営事業</b></p> <p>①図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務</p> <p>②図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出者＝町内に在住または在勤の者</li> <li>・冊数＝1人6冊まで</li> <li>・貸出期間＝2週間まで</li> </ul> <p>※本図書室は、京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携</p> <p><b>【読みたい本が見つからないときは】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予約・リクエスト可能</li> <li>・当図書室に本がないときは他の図書館からの借用が可能</li> <li>・パソコンを利用して検索可能</li> </ul> <p><b>【開室日と時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火曜日～金曜日…貸出時間は午前10時～午後4時45分</li> <li>・土曜日、日曜日、祝日…貸出時間は午前10時～午後4時15分</li> </ul> <p>※休室日は、毎週月曜日、毎月最終木曜日、12月27日～1月4日、その他特別整理期間</p> <p>＜図書室開室状況＞</p> <table border="0"> <tr> <td>開室日数</td> <td>288日</td> </tr> <tr> <td>蔵書数</td> <td>34,256冊（一般書 21,771冊 児童書 12,485冊）</td> </tr> <tr> <td>貸出者数</td> <td>21,124人</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>70,300冊</td> </tr> </table>			開室日数	288日	蔵書数	34,256冊（一般書 21,771冊 児童書 12,485冊）	貸出者数	21,124人	貸出冊数	70,300冊
開室日数	288日										
蔵書数	34,256冊（一般書 21,771冊 児童書 12,485冊）										
貸出者数	21,124人										
貸出冊数	70,300冊										
成果	<p>利用者のニーズに合った開館状態・管理者、利用者共に利用しやすい図書館システムの運営・情報提供を速やかに行うための資料管理・読書活動の普及、推進のための事業の実施・公民館図書室の利用サービスの運営事務ができた。</p>										
課題認識	<p>京都府南部地域でいちばん小さな図書室の一つですが、図書室の利用は年々増加しており、この要望にどのように応えていくかが大きな課題である。</p>										
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い面積での運営であるが、よく利用されている。今後は図書館建設も視野に入れた検討が望まれる。</li> <li>・京都府図書館総合目録ネットワークシステムとの提携により、図書室にない本も予約・リクエストすることにより利用できることは喜ばしいことである。</li> <li>・今後も利用者のニーズにあった事業の実施が望まれる。</li> <li>・図書室の利用が多いのは望ましいことである。利用者のニーズに応じる努力をされている。社会教育、学校教育両面からますますニーズは高まる。閲覧室の拡大は当面、公民館の一部を開放する等で対応し、根本的には公民館施設と併せて検討していく必要がある。</li> </ul>										

事務事業名	体育館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町体育館の利用について、利用団体数(延べ)で1,849件、利用者数が51,540名あり、無料大型駐車場を備えた町内スポーツのメッカとして年間を通じて町内外を問わず多くの利用がある。</li> <li>・フェンシング会場として全国的に非常に有名である。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町体育館は年々利用者数が増加している。利用率は76.6%であり、平日の午後以外の空き時間帯はほぼ無い状況である。</li> <li>・町体育館のみで年間700~800万円以上の使用料収入がある。</li> </ul>		
課題認識	<p>大山崎町体育館については、開館29年目を迎え建物の老朽化が進み、特に屋根からの雨漏りが頻繁に起こる状況にあり早急な改修が必要である。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用が多いのは喜ばしいが、建物の老朽化に対する対応が後手に回っている。頻発する雨漏り等に早急に対応するなど、安心・安全にスポーツできる状況を作り出す必要がある。</li> <li>・今後、さらなるスポーツ振興の拠点として活用する意味では、施設の機能向上面での改修も実施する必要がある。</li> <li>・改修費の予算不足を補うために、使用料の適切な見直しの検討も必要である。</li> </ul>		

事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>スポーツ振興事業については、各種大会の開催を大山崎町体育協会へ委託                      &lt;大山崎町体育協会事業&gt;</p> <p>5月10日 第30回おはようゲートボール大会                      参加者 12名</p> <p>6月28日 町民ソフトバレーボール大会                      参加者 148名</p> <p>7月31日 町民ソフトボール大会(雨天中止)</p> <p>9月6日 家庭婦人バレーボール大会                      参加者 55名</p> <p>10月11日 第54回町民体育祭                      参加者 約3,000名</p> <p>11月6日 ダブルス卓球大会                      参加者 16名</p> <p>11月7日 体育協会ニューススポーツの集い                      参加者 41名</p> <p>11月8日 町民グラウンドゴルフ大会(雨天中止)</p> <p>12月6日 町スポーツ少年団交流大会                      参加者 144名</p> <p>◇京都府民総合体育大会への参加                      10競技 参加者 115名</p> <p>◇町スポーツ少年団の育成                      8単位団 登録者 252名</p> <p>◇乙訓地区体育協会連絡協議会研修会                      11月28日 参加者 39名</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山崎町スポーツ振興の大黒柱である体育協会は、少ないスタッフであるにもかかわらず、町民体育祭をはじめ、ソフトバレーボール大会、ソフトボール大会、グラウンド・ゴルフ大会と地区対抗形式をとり毎年開催している。</li> <li>体育協会加盟団体が自ら主催する各種大会も多数開催されている。町民にスポーツや運動する機会を提供し、町民の健康の保持・増進や地域の交流・親睦・絆の一助となっている。</li> </ul>		
課題認識	<p>町全体に少子高齢化が進み各種大会・イベントを開催しても参加者が緩やかではあるが減少してきている。今後は「する」スポーツの機会だけでなく、「見る」スポーツの分野の機会を提供していくことも必要と考える。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>これらの事業は、大山崎町体育協会の協力を得て町民のスポーツ振興に大きな役割を果たしてきたが、少子高齢化により参加者が年々減少している。今後は町民のニーズにあった企画を検討していく必要があるのではないか。</li> </ul>		

事務事業名	総合型地域スポーツ事業 (わくわくクラブおおやまざき)	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>&lt;わくわくクラブおおやまざきの事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各種スポーツ教室の開催 12種目教室 参加者 145名</li> <li>②春のハイキング(大山崎町、島本町周辺) 参加者 20名</li> <li>③カヌー教室の開催(京都府京丹波町和知) 参加者 45名</li> <li>④秋のバスツアー(淡路島) 参加者 46名</li> <li>⑤クリスマスイベントの開催 参加者 157名</li> <li>⑥スキー・スノボ教室(スイス村・1泊2日) 参加者 35名</li> <li>⑦設立9周年記念イベント 参加者 65名</li> <li>⑧サタデーナイトの開催(年間17回) 参加者 509名</li> <li>⑨ソフトボール大会の開催 参加者 45名</li> </ul> <p>&lt;合計&gt; 参加者 1,067名</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、新規の会員が増え、地域とのつながりに新しい広がりができた。</li> <li>・スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動にスポーツ教室の指導を依頼しているため、つながりが継続している部分も多くあり、とくに近年スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという事例も増えてきている。</li> <li>・イベントに関しては、安定した参加人数を確保できており、とくに夏に開催するカヌー教室については、定員いっぱいになる人気イベントである。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員や参加者が協力的で理解のある方が多いため、スタッフが少ないなか活動を継続することができているが、スタッフの確保は毎年の課題である。</li> <li>・2年前に青年リーダー会「ゆうやけ」のメンバーがスタッフとして加わり、スタッフ不足は少し緩和されたが一時的なものであり、活動の幅を広げたり、会員の増加に対応する等のためにはまだまだ厳しい状況である。</li> <li>・スタッフの確保は、わくわくクラブだけでなく、町のスポーツ振興にも関わってくることもあるため、人材の発掘に努めたい。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブは、各市町村で多く発足したが、年々参加者が減少し消滅するクラブも多数ある中、新規会員が増え、地域とのつながりに新しい広がりが出てきているのは意義深く評価できる。また、スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという好循環が生まれていることは素晴らしい。</li> <li>・スタッフの確保については、青年リーダー会に頼らず確保できるよう、新たな施策が必要ではないか。</li> <li>・多彩な企画でスポーツを通じての親睦・繋がり・絆等、成功している様子が見えてくる。課題認識に沿った方向で検討が望まれる。</li> </ul>		

事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																											
事業実績	<p>スポーツ団体育成については、町体育協会及び総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）加盟の団体について指導・助言を行っている。</p> <p>◇スポーツ団体(7団体)</p> <table border="0" data-bbox="446 470 1244 772"> <tr> <td>・バレーボール連絡協議会</td> <td>3チーム</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>・バドミントン協会</td> <td>5チーム</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>・ゲートボール協会</td> <td>1チーム</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>・グラウンド・ゴルフ協会</td> <td>1チーム</td> <td>66名</td> </tr> <tr> <td>・陸上委員会</td> <td>1チーム</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>・軟式野球連盟</td> <td>10チーム</td> <td>180名</td> </tr> <tr> <td>・ニュースポーツ協会</td> <td>1チーム</td> <td>36名</td> </tr> </table> <p>◇総合型地域スポーツクラブ</p> <table border="0" data-bbox="446 817 1244 862"> <tr> <td>・わくわくクラブおおやまざき</td> <td></td> <td>115名</td> </tr> </table> <p>◇スポーツ少年団</p> <table border="0" data-bbox="893 862 1244 907"> <tr> <td></td> <td>8単位団</td> <td>252名</td> </tr> </table>			・バレーボール連絡協議会	3チーム	60名	・バドミントン協会	5チーム	80名	・ゲートボール協会	1チーム	12名	・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	66名	・陸上委員会	1チーム	10名	・軟式野球連盟	10チーム	180名	・ニュースポーツ協会	1チーム	36名	・わくわくクラブおおやまざき		115名		8単位団	252名
・バレーボール連絡協議会	3チーム	60名																												
・バドミントン協会	5チーム	80名																												
・ゲートボール協会	1チーム	12名																												
・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	66名																												
・陸上委員会	1チーム	10名																												
・軟式野球連盟	10チーム	180名																												
・ニュースポーツ協会	1チーム	36名																												
・わくわくクラブおおやまざき		115名																												
	8単位団	252名																												
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟団体の若干の減少傾向は見受けられるが、それぞれの団体で活発に活動されている。</li> <li>・スポーツ団体については、府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれの団体主催の事業も多数開催されている。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）は小学生や大人を対象とした各種スポーツ教室の開催や季節ごとにハイキングや力ヌー教室等のイベントを開催し、一定の参加者数を得ている。</li> <li>・スポーツ少年団は、京都府下でもトップクラスの加入率であり小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。</li> </ul>																													
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟チーム数の減少傾向が見られる。加盟会員の高齢化が進みつつあり、また、少子化によるスポーツ少年団員の緩やかな減少傾向がみられる。</li> <li>・それぞれの団体を運営される方（代表者）や、技術指導者のさらなる資質の向上を研修会、講習会等に参加されることで向上を求めたい。</li> <li>・それぞれの団体の活動場所・施設の不良個所の整備等が早急に求められる。</li> </ul>																													
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの団体が育成されている。スポーツ少年団も加入率が高い。健全なスポーツの在り方のためにも指導者・代表者の研修が行われると良い。</li> </ul>																													



事務事業名	スポーツ推進委員育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき現在10名の委員を委嘱している。</p> <p>スポーツ推進委員は、町体育協会事業の指導・助言や総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）への指導・助言を行っている。</p> <p>また、近畿・府・乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。</p>		
成果	<p>スポーツ推進委員が大山崎町のスポーツ振興事業の企画・運営に携わることにより、町体育協会等が開催する各種大会、イベントがスムーズに運営できている。</p>		
課題認識	<p>現在3名の欠員があり、地域性や専門性を考慮し、早急に補充する必要があると考える。</p>		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民のスポーツ振興に、スポーツ推進委員の役割は重要である。スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブへの助言のためにも、優れた人材の確保が望まれる。</li> <li>・「スポーツを愛する人が多くいる大山崎町」のイメージがある。推進員の補充の手立て、道筋を一定ルール化できないか。</li> </ul>		

事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)												
事業実績	<p>&lt;施設別の利用件数/利用者数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桂川河川敷公園の開放 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">利用件数</td> <td style="text-align: center;">196件</td> <td style="text-align: right;">利用者数</td> <td style="text-align: right;">6,736名</td> </tr> </table> </li> <li>・岩崎運動広場の開放 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">利用件数</td> <td style="text-align: center;">203件</td> <td style="text-align: right;">利用者数</td> <td style="text-align: right;">1,558名</td> </tr> </table> </li> <li>・町内小中学校体育施設の開放 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">利用件数</td> <td style="text-align: center;">1,035件</td> <td style="text-align: right;">利用者数</td> <td style="text-align: right;">21,420名</td> </tr> </table> </li> </ul>			利用件数	196件	利用者数	6,736名	利用件数	203件	利用者数	1,558名	利用件数	1,035件	利用者数	21,420名
利用件数	196件	利用者数	6,736名												
利用件数	203件	利用者数	1,558名												
利用件数	1,035件	利用者数	21,420名												
成果	<p>桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、市民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。</p>														
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校グラウンド夜間照明施設の電球切れ、安定器の機能低下等で少し暗く、タイマー機能の不良があり、今後の使用に大きな支障が見込まれるので、早急の改善が求められる。</li> <li>・岩崎運動広場は年々コートの状態が悪化しており早急の改善が求められる。</li> <li>・河川敷公園は、ここ数年台風・大雨による冠水被害で利用できない期間があり、屋外種目開催に支障がある。</li> </ul>														
評価委員の見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校の夜間照明施設は、大山崎町で唯一ナイターのできるグラウンドであり、早急な補修や改善が望まれる。</li> <li>・利用件数、利用者数とも若干の減少がみられるが、施設の老朽化との関係は如何なものか。</li> </ul>														

事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<歴史資料館の運営、活動> 年間入館者総数(開館日数 294日) 9,242名 図録等販売実績 456,060円		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町と隣接する島本町に残る二つの離宮跡を通じて、古代・中世の天皇と地域との関係を紹介する展示を行なった。特に平成27年度は近隣自治体の埋蔵文化財を中心に展示し、最新の成果を披露した。また1年を通して、入館者実績も堅調だった。</li> <li>・歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、自治体立の博物館施設との連携を実施することができた。また、それを通じて、各々の施設や活動をPRすることができた。特に、阪神間の人々に当館を周知させる絶好の機会となった。</li> <li>・地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数は、前年度よりもやや減少したが、全体としては堅調であった。</li> <li>・図録等の販売数は増加した。今後は、団体入館者に対しては、じっくりと時間をかけて見学できる工夫が必要である。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、他の自治体立の博物館施設との連携がなされたことは評価される。また、阪神間の人々に資料館が周知されたことは大きい。</li> <li>・今後も、企画展などの催しを通じ、大山崎町をPRされたい。</li> <li>・町が歴史資料館を運営していることは誇れる。近隣の自治体との連携も広がりを感じ評価できる。</li> </ul>		

事務事業名	各種企画展等事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<p>&lt;各種企画展の開催・調査活動&gt;</p> <p>5月1日～31日 蘭花譜一原画作成の頃(小企画展) 参加者 1,342名</p> <p>8月4日～23日 第17回平和のいしずえ展(小企画展) 参加者 315名</p> <p>10月24日～11月29日 河陽離宮と水無瀬離宮(第23回企画展) 参加者 1,772名</p> <p>3月1日～21日 伊勢講の古文書(小企画展) 参加者 542名</p> <p>&lt;その他&gt; 文化財の燻蒸、目録作成</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展において、前年度に引き続き多くの入館者を得ることができた。</li> <li>本町を訪れた人に対して館内および名所旧跡を案内する生涯学習ボランティアグループ(大山崎ふるさとガイドの会)が育ち、新たに修得された知識等を活用できた。</li> <li>国立博物館に寄託されている国宝などを一時的にも地元で展示・公開し、「里帰り」を果たすことができた。</li> <li>寄贈いただいた地元の文化財の簡易目録を作成した。新出史料などを、小企画展において、展示・公開することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山崎町には平安時代前期の嵯峨天皇の河陽離宮跡、島本町には鎌倉時代前期の後鳥羽天皇の水無瀬離宮跡が残っており、近年考古資料の展示も可能になってきた。</li> <li>今回の展示では、こうした考古資料を中心に展示させていただいたが、こうした今まで光が当てられなかった分野についても、一般の方々の興味関心が高いことを改めて再認識させられた。</li> <li>資料借用で、大阪府の島本町、枚方市等の協力を得たが、大阪府側の自治体との交流の重要性を実感した。</li> <li>当該事業の展開で、幅広い年代に大山崎町の歴史についての学習や体験活動を通して、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。</li> <li>小企画展では、地元の近世・近代資料を調査し、目録作成を通じて、展示に活用した。</li> </ul>		
評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山崎町内だけでなく、島本町をはじめ大阪府の関係団体との交流ができたことは意義が深く、大山崎を広範な目で見られることは素晴らしい。</li> <li>今後も企画展を通じ、歴史ある大山崎を発信してほしい。</li> <li>企画展に集客が多いのは工夫をされたからだと想像する。「ふるさとガイドの会」の活用も他地域の方からも評価されている。企画展だけではなく、常設展も希望者に分かりやすい説明付き(対話式)だとより入館者が楽しめる。</li> </ul>		

事務事業名	講座・講演会事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<p>&lt;各種啓発事業の開催&gt;</p> <p>◇講座・講演会等</p> <p>8月22日・9月27日・11月3日 『離宮』の考古学(全3回) 参加者 計315名</p> <p>10月29日 ふるさとガイドのための講習会 参加者 35名</p> <p>10月17日 西国街道リレーウォーク「街道集落大山崎と離宮八幡宮」 (歴史街道推進協議会関連事業) 参加者 45名</p> <p>11月15日 「桓武の弟崇道天皇からシダラ神の行進まで」 11月22日 「後鳥羽天皇と鎌倉幕府」 参加者 計263名</p> <p>11月28日 河陽離宮・水無瀬離宮の跡地を訪ねる(現地説明会) 参加者 35名</p> <p>3月5日 伊勢講の古文書を読む(古文書講座) 参加者 9名</p> <p>◇普及啓発事業(文化を未来に伝える次世代育み事業)</p> <p>6月20日・6月27日 詩で学ぶ大山崎の風景(子ども歴史クラブ教室) 参加者 10名</p> <p>7月23日・24日 古代の瓦をつくろう!(夏休み子ども歴史教室) 参加者 26名</p> <p>3月23日~4月10日 第15回地域学習展示交流会 参加者 580名</p> <p>◇調査活動</p> <p>川崎恵子氏旧蔵資料等の整理活動、および燻蒸</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展で学んだ内容を、現地の史跡や文化財とつなげて理解する実践を行った。学習機会の提供とともに、近隣自治体の遺跡とあわせて地元の遺跡や資料を考える視角を展示した。これによって幅広い視野から大山崎町に対する愛着心を育んでいる。</li> <li>他市町村の活動や研究成果を考えることで、大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることが出来るようになった。さらに淀川や西国街道を扱うことで、広域連携を行なうことにつながっている。</li> <li>小中学生対象の各事業の実施により、幅広い年代層に対して、地域の歴史・文化を学んでもらう場となっている。特に、毎年相違するテーマを選びつつ、郷土の資料や文学資料を学習することで、地元大山崎町への愛着心が育まれることにつながっている。</li> <li>小中学生がボランティアグループと接するなかで、幅広い年代の方々との交流が生まれている。</li> <li>ボランティアグループにおいても、小中学生の習熟度に応じた対処・取組が</li> </ul>		

	<p>可能となり、その指導者育成につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の調査や燻蒸を行うことによって、新しく確認された地元資料を後代に伝え、展示・公開をさらに進めることができる。また、今後の企画展・小企画展にも活用できる。</li> </ul>
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>大山崎は淀川や西国街道で他地域とつながっており、共通のテーマとなる歴史や文化で結ばれている場合が多い。こうした部分をさらに掘り起こし、広域連携の契機としていくことが課題である。</li> <li>小中学生に関心を高めるテーマを追求していく必要がある。また、習熟度に応じた説明や理解の促進を実施する必要がある。</li> <li>寄贈を受けた古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。そして保存とともに、公開・活用していくことをさらに進める必要がある。</li> </ul>
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種啓発事業を開催することにより、大山崎町の歴史や文化をより深く説明し紹介していくことは意義のあることである。今後は他の地域との広域連携も視野にさらなる啓発事業が実施されることを期待する。</li> <li>大人、子ども向けのたくさんの企画が行われており、結果、ふるさと大山崎への愛着（誇り）が育まれたことは評価できる。観光との連携や小中学校の歴史学習・総合的な学習の時間として教育課程に組み込む出前授業等さらなる充実が望まれる。</li> <li>「〇〇コース」のような、所要時間の目安と共に町内の歴史を巡るガイドブックを（学年発達段階に合わせ）何コースか作成し、小中学校等に配布し、学習で活用してもらうことを検討できないか。</li> </ul>

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査・史跡整備事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<p>①12月22日～1月7日 国庫補助事業 鳥居前古墳の調査 調査対象面積 4,000㎡</p> <p>②4月9日～3月31日 史跡整備事業(史跡大山崎瓦窯跡) 土砂除去・地形測量・基本計画の策定・実施設計</p> <p>③7月15日～30日 開発に伴う発掘調査 長岡京跡右京第1116次調査 調査対象面積 88㎡</p> <p>④8月3日～10月22日 開発に伴う発掘調査事業 第74次遺跡確認調査(百々遺跡) 調査対象面積 405㎡</p> <p>⑤9月7日～10月9日 開発に伴う発掘調査事業 山城国府跡第74次調査(大山崎遺跡群) 調査対象面積 100㎡</p> <p>⑥10月6日～10月16日 開発に伴う発掘調査事業 長岡京跡右京第1122次調査 調査対象面積 100㎡</p> <p>⑦2月9日～2月19日 開発に伴う発掘調査事業 長岡京跡右京第1129次調査 調査対象面積 56㎡</p> <p>⑧3月7日～3月16日 開発に伴う発掘調査事業 長岡京跡右京第1132次調査 調査対象面積 100㎡</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助事業では、鳥居前古墳の後円部の円筒埴輪2本の樹立状況を調査し、取り上げ作業を行った。また、空中撮影と埋戻しを行った。</li> <li>・史跡整備事業では、史跡大山崎瓦窯跡の基本計画の策定・地盤造成工事に伴う実施設計を行った。</li> <li>・開発に伴う発掘調査事業は、原因者分として6件実施した。</li> <li>・とりわけ、老人福祉施設建設に伴う調査においては平安時代の遺構面を検出し、平安時代を中心とする遺物が出土するなど重要な成果が得られた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助事業・史跡整備事業・開発に伴う発掘調査事業の各事業において、調査面積や期間、記録保護等を適切に発掘調査を実施することが重要である。</li> <li>・史跡大山崎瓦窯跡の史跡整備に向け、整備委員会の意見を聴取しながら、京都府関係部局とも連携し取り組む必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥居前古墳の調査は、最終段階をむかえているとのことであるが、調査終了後の史跡整備について、十分検討されたい。</li> <li>・近年、開発も多いことから、多くの発掘調査に取り組まれている。記録保護等が繁雑にならざるを得ない状況への対応をどうするか検討する必要がある。</li> </ul>		

事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	①11月12日～11月13日 大山崎中学校職場体験学習(中学校2年生)の受入 ②11月1日 文化のつどい—第74次遺跡確認調査成果のポスター展示 ③11月20日～11月29日 エントランスルーム展示—古代のまじない遺物の展示 ④3月13日 スライドでみるおとくへの発掘 「大山崎町の古墳」 参加者 約126名		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のPRを含めて他市町村へ出向いて報告することは効果的であると考え。</li> <li>・中学生による職場体験学習では、埋蔵文化財の整理作業体験を通して望ましい社会性や職業観を身に付けてもらうには良い機会である。</li> </ul>		
課題認識	史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを生かしたまちづくり構想が求められている。		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳の調査の終了に伴う今後の史跡整備に関し、広報などを通じ、周知を図りたい。</li> <li>・中学校エントランスホールに、発掘された遺物などの展示を行っていることは、中学生が大山崎の歴史を知る上で貴重であり、意味のあることである。また、発掘調査を中学生自身が体験することでさらに大山崎の歴史に興味を持つことになり、非常に有意義である。</li> <li>・小中学校の社会科の時間に発掘担当者による出前授業を検討されては如何か。</li> <li>・史跡・歴史等の生かし方は、町作り構想検討委員会?のような検討体制が必要になるのではないか。</li> </ul>		



事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	①5月2日 乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会(乙訓文化芸術祭) 主催 乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 ②9月26日 民俗芸能鑑賞の夕べ「嵯峨大念仏狂言」 講演・実演・写真展 主催 大山崎町教育委員会・大山崎町文化協会		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校8校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となっている。</li> <li>当該事業は毎年好評で、観客は約1,000名である。こうした大勢の観客を目の前にして演奏する生徒たちは、緊張や失敗、仲間とやり遂げた達成感や充実感等を体感することとなる。よって、「大舞台で、どれだけ自身のパフォーマンスが発揮できるか。」を試すには、絶好の機会である。</li> <li>民俗芸能鑑賞の夕べでは、約160名の住民が身近な場所で、普段触れることの無い国指定重要無形民俗文化財を鑑賞した。</li> <li>講演や写真展により民俗文化財の理解が深められ、伝承してきた歴史の重みが伝えられた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸能・芸術は、人間生活にとって不可欠な要素の一つである。</li> <li>多面的な角度から、各種のニーズにこたえることが望まれる。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>民俗芸能鑑賞の夕べは、長年催されてきた中秋の名月鑑賞会に代わる事業であるが、住民が身近な場所で文化芸術に触れられる良い機会となっている。今後も住民の文化芸術に接する機会として継続されたい。</li> <li>誰しも文化に触れ、心豊かな人生をと願うのは当然である。集客数も多く、ニーズがあると思われる。</li> </ul>		